

サステナビリティレポート 2026

すべての人々が人間らしく生きられる、 豊かな地球を未来のこどもたちへ

伝統的な文化や産業、みどり豊かな山々、そしてきれいな水にめぐまれたこの福島県をこどもたちや孫たちの世代に伝え残していきたい。美しい会津の風景を守りたい。



図 3-1 気候変動に関する各要素の変化の関係の概要
(出典：文部科学省及び気象庁「日本の気候変動 2025」)

はじめに

国は、日本における気候変動の影響をとりまとめた「第3次気候変動影響評価報告書」を公表しました。

それによると、深刻化する気候変動による自然環境の変化はもちろん、私たちの生活や健康、さらには農林水産業などの一次産業から各種産業に至るまでの経済面での影響がすでに生じており、そして将来に予測される影響が示されています。

日本では、すでに過去100年間当たり1.4℃のペースで気温上昇をしており、世界平均より高いペースで上昇をしています。真夏日や猛暑日などが増加しているだけでなく、気温以外の変化として、年最大日降水量（1年で最も雨の降った日の降水量）や極端に強い雨の頻度なども増加しています。

また、海水温の上昇とそれともなう水蒸気量の増加が影響することで台風の大型化なども指摘されています。

このような陸・海の気象の変化は、そこで生息する動植物への影響だけではなく、人間の経済活動にも広範囲にわたり影響を及ぼすことが予測されています。

例えば、日本の主食の米の場合、もし気候変動対策が進まず、今世紀末には4℃程度の気温上昇のペースで進んだ時、現行品種のまま生育を続けると生産量は今世紀末には約20%減少することが予測されています。昨年度の米不足の程度ではなくなります。

社会・経済面への影響も深刻で、農林水産業への影響は、それらを加工・販売・サービス提供等する経済活動にも関わってきます。何より、気候変化そのものが人々の健康に直接的な影響をもたらすことが予測され、暑熱の影響で現在すでに熱中症の搬送者数は増加傾向にありますが、今世紀末に4℃の気温上昇するペースで気候変動が悪化すれば、今世紀の中頃には、熱中症搬送者数が、現在の約4.5倍程度になると予測がされています。

その他にもデング熱などの感染も、媒介するヒトスジシマカの分布域拡大により増加することや、メンタルヘルスへの影響も予測されています。

気候変動が極端な降雨現象などをもたらすことにより、災害が誘発するリスクも高まり、経済的なダメージも大きくなっていきます。

「第3次気候変動影響評価報告書」で示された影響は、全体のごく一部に過ぎませんが、今後、日本や世界が気候変動対策をおろそかにした場合に、来るであろう未来予想図でもあります。

しかし、その未来予想図はまだ変えることが可能で、いまの生活の利便性を得る代償としてこの状況を作り出してきた私たちが責任を持って変えていく必要があります。

今の瞬間、気候変動による危機を感じない方が多いのですが、今こそ省エネの推進や再エネの導入拡大などの対策を大きく進めていく必要があります。

未来の子どもたちに、安心して暮らすことのできる環境を継承するため、会津の美しい自然を守るため、組合員さんと一緒になって気候変動対策に取り組んでいきます。



環境方針

*****コープあいづが目指すこと（ビジョン）*****

この地域に生協があってよかった。生協があるから安心して暮らしていけると喜ばれるコープあいづを目指します。

***** 方 針 *****

生活協同組合コープあいづは、生協の21世紀理念「自立した市民の協同の力で人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現を」を実現するために、2030 環境サステナビリティ政策を策定し、組合員と職員が力をあわせ、事業活動における環境負荷の低減を図り、会津の豊かな自然を未来に引き継ぐことで、持続的に発展する社会づくりに寄与していきます。

1. 持続可能な社会を目指して、「気候変動対策」「エシカル消費」「省資源・資源循環の推進」「自然との共生」の視点で、環境・サステナビリティ政策を推進します。
 - ・ エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。
 - ・ 生協事業のサプライチェーン全体と、組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。
 - ・ 再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
 - ・ 生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます。
 - ・ 生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します。
 - ・ 生協事業ならびに 組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。
 - ・ 組合員とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を指します。
2. 環境マネジメントシステムの継続的な改善に努め、事業効率を高め、経済と環境の発展を目指します。
3. 環境側面に関わる法規制等を順守し、汚染の予防に努めます。
4. 全職員及び業務委託先に教育や啓発を行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

この環境方針を広く公開し、環境活動の取り組み状況について定期的に公表します。

2025年4月28日制定
生活協同組合コープあいづ
理事長 吉川毅一

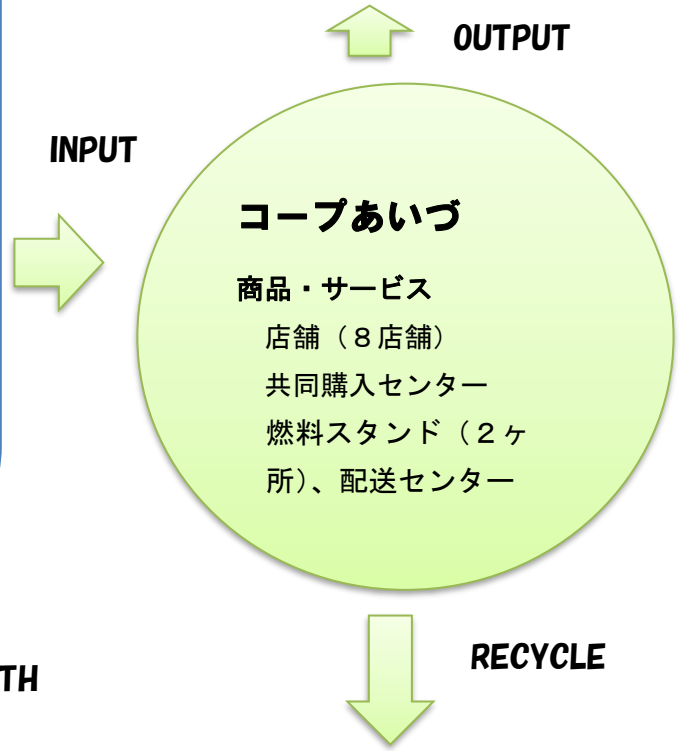
2025年度 事業活動による環境負荷

主なINPUT（投入）

- 商品
- エネルギー、水資源（前年比）
 - 電気・・・8,046,167kWh（98%）
 - ガス（LPG）・・・70,033m³（106%）
 - 灯油・・・20,111ℓ（75%）
 - 軽油・・・113,185ℓ（103%）
 - ガソリン・・・29,086ℓ（98%）
 - 上水道・・・37,187m³（97%）
- 資材（前年比）
 - レジ袋・・・3,224kg（95%）
 - 容器包装資材（トレイ・ラップ等）
・・・88,330kg（102%）
 - 内袋・・・5,043kg（99%）
 - コピー用紙・・・8,781kg（98%）
 - 新聞チラシ・・・43,291kg（94%）
 - POP用紙・・・4,266kg（83%）
 - 商品案内・・・286,220kg（96%）
- 工用原材料

OUTPUT（排出）

- 廃棄物（前年比）
 - 一般廃棄物・・・367,874kg（99%）
 - 産業廃棄物・・・116,595kg（103%）
- 大気への排出（前年比）
 - CO₂・・・4,018t（123%）
 - フロン（CO₂）・・・815t（99%）



RECYCLE（リサイクル）

- 事業活動の中で取り組んでいるもの（前年比）
 - 商品案内・・・281,240kg（103%）
 - 共同購入シッパー内袋・・・2,160kg（104%）
 - 食品残さ・・・110,730kg（101%）
 - 廃食油・・・7,947kg（105%）
 - コピー用紙・雑紙・・・7,716kg（136%）
 - ビン・缶・ペット・・・1,820kg（258%）
 - ダンボール・・・245,446kg（93%）
- 組合員のリサイクル活動（前年比）
 - 牛乳パック・・・7,985kg（103%）
 - 発泡トレイ・・・4,992kg（102%）
 - 透明トレイ・・・3,232kg（112%）
 - 新聞・・・35588kg（550%）
 - 雑誌・・・56,710kg（231%）
 - ダンボール・・・52,762kg（595%）
 - ペットボトルキャップ 255kg（52%）

持続可能な社会を目指して



コープあいつは、日本生協連の「SDGs行動宣言」に賛同し、 持続可能な社会づくりに取り組みます。

SDGsは、国連に加盟する193カ国すべての国々で、「今全世界が取り組むべき課題」として採択された目標で、世界中の全ての人々が目指すべきゴールです。

「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現を目指して、2030年まで達成すべき目標です。この地球で人間らしく暮らし続けるための17の目標が掲げられています。

そして、日本生協連の「SDGs行動宣言」とは、SDGsの達成にむけ、生協もその一端を担うべく策定された行動宣言で、7つの取り組みを通じてSDGsの実現に貢献することを約束します。

コープあいつは、「一人は万人のために 万人は一人のために そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、持続可能な社会を実現する」という21世紀の生協の理念に基づいて、組合員さんと職員が一緒になって、ユニセフの活動や食育の推進、環境に配慮した商品の利用や普及、ピースアクションなどの平和への取り組みを行っています。

SDGsの「誰一人取り残さない」という原則は、コープあいつの目指す事でもあります。SDGsの17の目標を169のターゲット実現に向け、コープあいつでも日本生協連の「行動宣言」としてまとめられた7つの取り組みを一緒に進め、SDGsの実現に貢献していきます。

□スローガン

すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

□コープSDGs行動宣言

1. 持続可能な生産と消費のために、商品と暮らしのあり方を見直していきます。
2. 地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します。
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。
5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。

コープあいつは、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献することを約束（コミット）します。持続可能な社会の実現の為、地球上のみんなが「笑顔」で暮らせる為、日本生協連の「SDGs行動宣言」を実現する為に取り組むを進めていきます。



- 6. 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。
- 7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます。

□ コープあいづの取り組み

番号	主たる目標と関連する目標	私たちが進めていく課題
1	12 持続可能な消費と生産 1 貧困をなくす 3 健全な生活と福祉 6 清潔な水と衛生 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル消費を進めます。 ・産直商品を普及拡大していきます。
2	7 再生可能エネルギー 13 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出量を削減していきます。 ・再生可能エネルギーを積極的に取り入れていきます。
3	1 貧困をなくす 2 健全な生活と福祉 4 質の高い教育をみんなに 6 清潔な水と衛生 10 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフ募金に取り組みます。 ・子ども食堂などの支援やフードバンクやフードドライブに取り組みます。
4	16 平和と公正な社会を築こう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・平和の為の戦争展など、平和の大切さを学び継承していく活動に取り組みます。
5	5 ジェンダー平等をすすめる 8 豊かさをみんなに実感しよう 10 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーフリーと多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。
6	11 住み続けられるまちづくりを 9 産業と雇用を創出しよう 3 健全な生活と福祉 10 人や国の不平等をなくそう 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の見守り活動や、移動販売を通じて、地域における役割を果たしていきます。
7	3 持続可能な健康と福祉 11 住み続けられるまちづくりを	<ul style="list-style-type: none"> ・より健康的な食生活を支えていく商品の普及を組合員と一緒に進めていきます。

※SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは「誰一人取り残さない「No one will be left behind」ことを宣言し、経済、社会、環境をめぐる幅広い課題に、統合的、包括的に全世界で取り組むことを決めたものです。

コープあいづの環境・サステナビリティ政策とアクションプラン

生協の21世紀理念である「自立した市民の協同の力で人間らしくらしの創造と持続可能な社会の実現を」を達成するために、「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を基に、コープあいづの環境・サステナビリティ政策を作り、取り組みを進めていきます。



<スローガン>

すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

<コープあいづのビジョン>

この地域に生協があってよかった。生協があるから安心して暮らしていけると喜ばれるコープあいづを目指します。

行動指針 1：エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。

<コープあいつの目標>

- ① 日本生協連のエシカル消費対象商品の供給高を、2030年までに24億円まで拡大させます。
(2021年度対比約140%)
 - *店舗：11億円→16億円(2021年度対比約152%、毎年約1%の伸長)
 - *宅配：2.6億円→3.6億円(2021年度対比約108%、毎年約1%の伸長)
 - *コープあいつの店舗で扱う産直商品の供給高を、2030年までに3,700万円まで拡大させます。(2021年度対比約106%、毎年約1%の伸長)



行動指針 2：生協事業のサプライチェーン全体と、組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。

<コープあいつの目標>

- ① 2030年に事業におけるCO₂排出総量を2013年度比で73%削減します。
- ② 2050年までに、ゼロカーボンを目指します。

行動指針 3：再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。

<コープあいつの目標>

- ・現時点では設定しませんが、今後の中で検討していきます。

行動指針 4：生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます。

<コープあいつの目標>

- ① 店舗で使用するプラスチック製容器包装の使用量を、2021年度対比で21%削減します。
- ② 宅配で使用する商品案内の配布重量を、2021年度対比で25%削減します。
- ③ 事業所で使用するコピー用紙の使用重量を、2021年度対比で5%削減します。

行動指針 5：生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します。

<コープあいつの目標>

- ① 店舗でのトレイ回収重量を、2021年度対比130%以上にします。
- ② 宅配での内袋回収重量を、2021年度対比150%以上にします。

行動指針 6：生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。

<コープあいつの目標>

- ① 食品廃棄物の発生量を、2021年度対比64%に削減します。

行動指針7：組合員とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を目指します。

<コープあいつの目標>

- ① 環境保全の取り組みや学習会、環境イベント・エコライフチャレンジの参加人数を 2021 年度対比で、1,600 人に広げていく。(約 230%増加) を目指します。

地球温暖化防止対策の推進



CO₂削減の取り組み

2025 年度は、気候変動の影響、気候の極端化、暮らしの変化を改めて実感する年になりました。

2月上旬の北海道などでは観測史上最も多い降雪量が観測された一方、日本の夏(6月~8月)の平均気温は統計開始以降歴代1位の高温となりました。5~9月の熱中症による救急搬送人員は初めて10万人を超え、過去最多となりました。7月の東北日本海側と北陸地方では降水量が記録的に少なくなるなど、これら気候変動に伴う高温や水不足の影響で作物の不作などが発生しました。

高温や干ばつの影響により、一部の野菜では生育不良や出荷量の減少が見られ、価格上昇など食生活への影響が生じています。また日本近海では平均海面水温の上昇に伴い魚介類の分布が変化し、水揚量の減少や漁獲される魚種の変化が起こっており、食や経済にも大きな影響を与えています。近年、夏の厳しい暑さや激しい雨など、気候変動の影響を身近に感じる機会が増えており、多くの人がこうした変化を実感しています。

私たち生活協同組合としても、暮らしを守る立場からも、今後一層の努力が必要になってきます。



コープあいつの温室効果ガス削減目標

2030年に事業におけるCO₂排出総量を2013年度比で73%削減します。

2050年までに、ゼロカーボンを目指します。

コープあいつでは、あるべき姿からバックキャストिंगの手法を用いて高い目標を設定しました。

実現に対しては高いハードルではありますが、地球温暖化の影響は暮らしを脅かすものとしてとらえ、設定した目標です。

これまでも天井照明のLED化などに取り組んできましたが、省エネケースへの入れ替えや高効率の空調機への入れ替えなども進めていきます。

また、営業車や配送用トラックのEV化なども検討し、国や福島県が宣言している「カーボンニュートラル」実現に向け、更に努力をしていきます。



CO₂の総量削減に取り組んでいます。

～昨年度より744tの増加となりました～

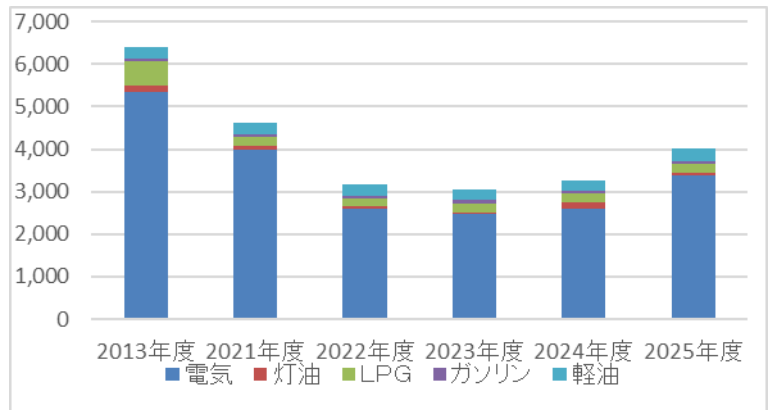
削減率は、前年比約123%の増加ですが約、2013年度対比約63%の削減となり、2030年度末目標に迫ってきています！

2025年度のコープあいつが事業より排出している温室効果ガスの量は、約4,018t-CO₂となり、前年度対比約123%、2013年度対比63%となりました。

増加の一番の要因は、排出係数が変更になったことです。

2024年度の計算より、温室効果ガス排出係数を基礎排出係数から調整後排出係数と改めたため

多くなっています。温室効果ガスの排出量の多くを占める電力は、会津エナジー様より調達していますが、FIT電力が多く占めている為に調整後排出係数が高くなっており、増加しています。



	2013年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
電気	5,353	3,992	2,608	2,470	2,593	3,395	131%
灯油	140	86	45	48	165	50	30%
LPG	571	224	192	195	198	210	106%
ガソリン	58	46	60	90	74	66	90%
軽油	274	262	253	246	245	296	121%
CO ₂ 排出量	6,396	4,611	3,158	3,049	3,274	4,018	123%
2013年度比		72%	49%	48%	51%	63%	

CO₂削減の取り組みは、電気使用量が多い店舗が中心となります。主な取り組みでは、飲料などの冷蔵ケースの夜間停止、冷凍冷蔵ケースの設定を省エネ設定に変更、温度帯を四半期ごとに確認して設定温度の適正化、冷凍冷蔵ケースの冷氣漏れ防止暖簾の設置、デマンドコントローラーの活用と室外機の冷却噴霧装置の運用です。

課題としては、2番目にCO₂の排出量が多い、宅配事業の車両燃料の削減です。配送コースの効率化や省エネ運転の実施などの対策を取っていますが、事業拡大により軽油の使用量が増加します。

車両のEV化などの対策は効果的ではありますが、価格面や性能面でまだ実用的ではないと判断しています。



※会津エナジー様の電源は、「FIT 電気 100%」を実現しています。ただし、この電気には非化石証書を使用していないため、再生可能エネルギーとしての価値や CO2 ゼロエミッション電源としての価値は有さず、火力電源などを含めた全国平均の電気の CO2 排出量を持った電気として扱われます。提供している協力発電事業者には、会津電力や飯舘電力があります。



会津電力：喜多方市の雄国発電所

省エネルギーの取り組み

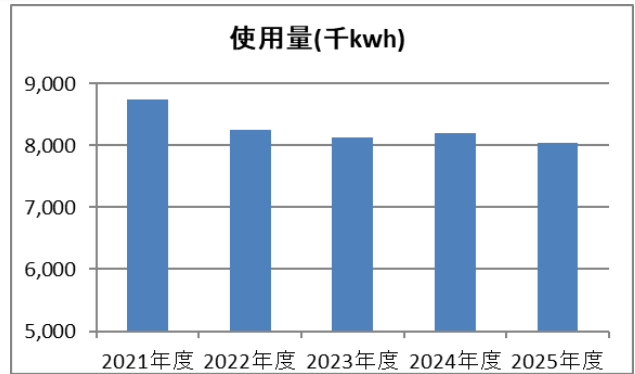


電気使用量の削減に取り組んでいます ~昨年より約 2%の削減できました~

2025 年度の夏は、観測史上最も気温が高い年となりました。会津でも、35℃を超えるような日がありました。冷凍冷蔵ケースが多いことや空調機の使用によって、夏季の電力使用量は増加しました。

しかし、ひがし店の改装による冷凍冷蔵ケースの省エネ化や、ファイナルゲート社によるエネルギー効率最適化として、空調機や冷ケースの室外機の洗浄、冷ケースの設定温度の適正化、庫内ファンの間欠運転、不要な冷却の停止などを行うことで電気使用量の削減が進んだものと考えます。

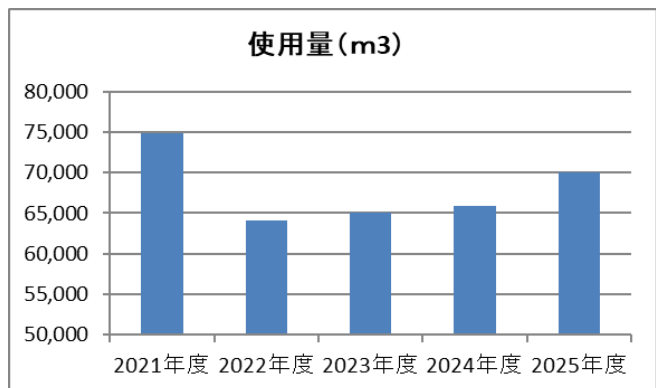
2026 年度より、経営再建に取り組みますので、大きな投資はできませんが、運用による省エネを進めるなど、少しでも削減できるように取り組みを強化していきます。



LPガス使用量の削減に取り組んでいます ~昨年より約 6%増加しました~

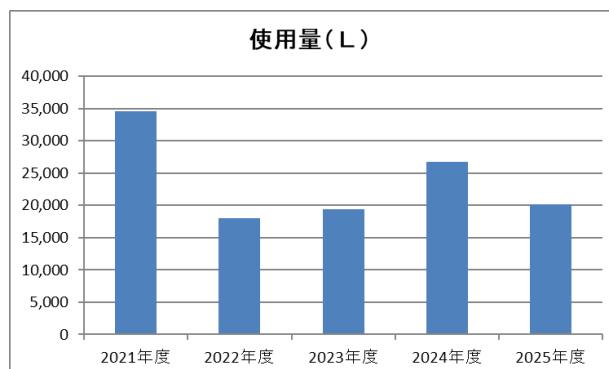
LPガスは、3店舗の空調機での使用と5店舗の厨房で使用しているガス式フライヤー、ひがし店のスロープの凍結防止ヒーターでの使用によるものが殆どを占めます。その中でも、空調機の使用によるものが多くを占めています。

2025 年度は、電気同様夏季の高温で増加しました。また、2 月後半から 3 月の低温によるひがし店のスロープの凍結防止ボイラーの使用が増えました。



灯油使用量の削減に取り組んでいます ～昨年より約 25%削減できました～

灯油は、暖房用とほんまち店の融雪ボイラーの燃料として使っています。使用量で一番多いのは、ほんまち店の融雪ボイラーですが、降雪車の活用などによって、融雪ボイラーでの燃料使用量が減っています。



車両燃料使用抑制に取り組んでいます、事業拡大により増加しています

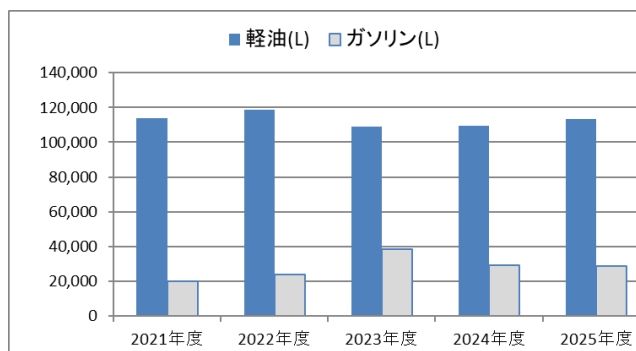
～昨年より軽油使用量は 3%増加、ガソリン使用量は約 2%削減しました～

燃料の使用で、一番多いのは宅配事業で使用するトラックの軽油です。また、移動販売車両によるトラックの軽油使用量も増えてきており、前年度より3%の増加となりました。今後も宅配の事業拡大によって増加傾向となります。

削減は難しいのですが、できるだけ抑制するために、配送ミスが減らす事や、配送コースの見直しなどに取り組んでいます。他生協などでは、小型EVトラックの導入が増えてきていますが、4WD車両のラインナップがなく、雪深い会津では難しいと考えます。

ガソリンの使用では、営業活動により増減していきます。2025年度も配送スタッフ不足により仲間づくりタスクの活動がやや減少し、削減となったと考えます。

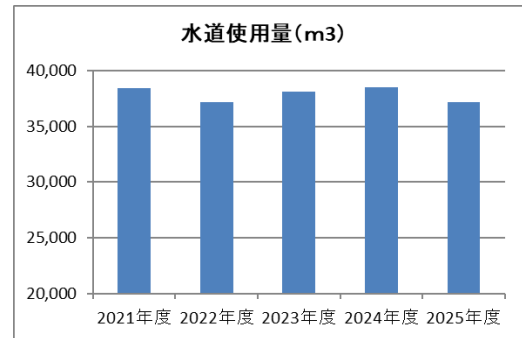
2026年度からは、宅配事業の強化を行う為、今後は増加傾向となります。EV車の導入なども検討が必要ですが、軽自動車などのEV車では4WD車両のラインナップがなく、今後の課題となります。



水道使用量の削減に取り組んでいます ～前年より3%削減できました～

水道使用の殆どが、店舗での商品加工やトイレでの使用です。商品加工やトイレの使用は、削減することが難しいのですが、商品加工を行うバックヤードの蛇口には、節水コマを使用しており、節水に心掛けています。

また、毎月の使用量を点検し、無駄な使用実態がないかの調査、冬期間の水道管の破損などによる水漏れの早期発見に心掛けています。



レジ袋削減に取り組んでいます ～レジ袋の辞退率は88.8%、約381万枚の節約～

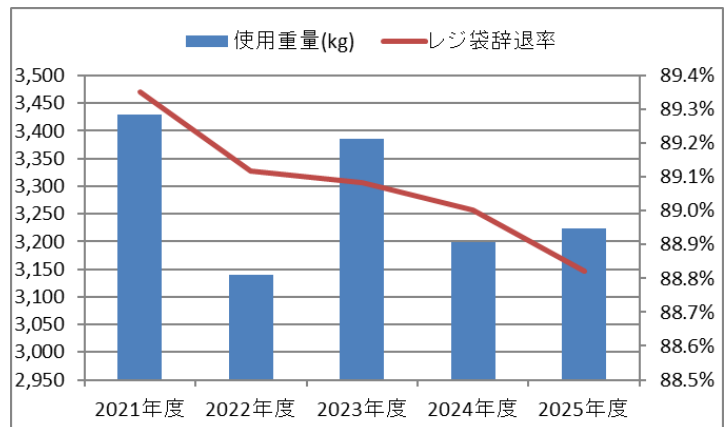
レジ袋の辞退率は、約88.8%で、前年度より0.2%低下しました。しかし、90%近い辞退率で推移しており、福島県の平均辞退率84.5%より高い辞退率となっており、多くの組合員さんに協力いただいています。

また、そのことによる削減効果は約381万枚の削減となり、削減重量は約25.6t、原油換算で31kl、CO₂換算では約13tもの削減効果となります。

レジ袋は、利便性が高いため、私たちの生活の中で多く使用されていますが、海洋プラスチックの問題や、原料が石油のため製造や処分の際に多くの温室効果ガスが発生します。コープあいづでは、組合員さんと一緒にレジ袋持参運動を進めており、高い持参率を達成できています。

これまで、ゴミ出し用の袋として購入されていた方がありましたが、会津若松市で家庭ごみの有料化により指定袋を使うこととなり、削減が進むものと考えています。

また、2月からは有料レジ袋の素材をバイオマスプラスチック25%のものに変更し、重量も1枚6gから5.4gと軽量化を図り、プラスチックの使用抑制を図っています。



持続可能な生産と消費の為に 資源の使用量抑制に取り組んでいます



コープあいづでは事業活動を通して、エネルギーでは原油換算で約2,129Kl、プラスチック容器包装を約89t、宅配の商品案内などで371tの紙を使用し、地球温暖化の原因となるCO₂を約4,018t、一般廃棄物を368tなど排出しており、コープあいづが環境に与える影響は少なくありません。

持続可能な社会に向けては、限りある資源を有効活用し、できるだけ使用量の抑制ができるよう取り組んでいく事、循環型社会を作っていく事が必要です。

コープあいづでは、リデュース (Reduce) = 出すごみの総量を減らすこと、リユース (Reuse) = 再利用すること、リサイクル (Recycle) = 再生産に回すこと。この3Rをすすめ、資源の使用量を減らす努力をしています。



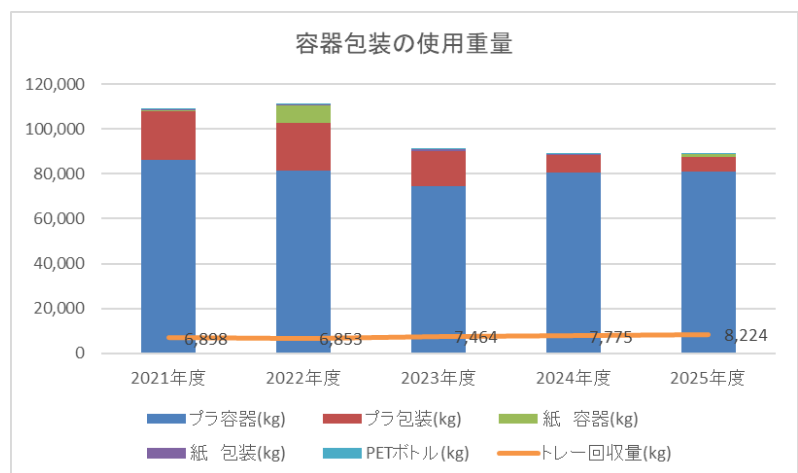
容器包装の使用量の抑制に取り組んでいます ~前年より0.2%削減しました~

生協の店舗では、トレーやラップなどの容器包装を多く使用しています。商品を安全に衛生的に販売するためには、容器包装を使用しないわけにはいきません。

しかし、容器包装のほとんどが化石燃料から作られており、資源の有効活用や温室効果ガス排出量の削減のためには、使用量を少しでも減らすことや、店頭での回収を行う事が重要だと考えています。

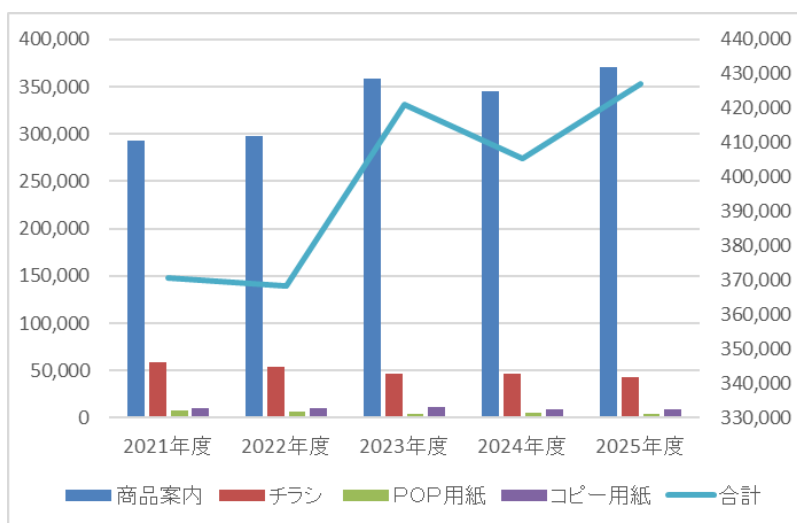
2025年度は、全体で前年度より約0.2%の重量削減となりました。容器包装リサイクル法の再資源化委託金額も多くなることから、軽量化を目指してきましたが、商品の見栄えや作業性などにより、容器の変更が進まず、大きな削減とはなりませんでした。

トレー回収に関しては、組合員さんの学習会は2回実施し、広報誌などでの呼びかけを行い、前年度対比6%の増加となりました。



紙類の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より5%増加しました～

紙類の使用量で、一番多い物は宅配事業で配布している商品案内で、年間約 371 t にもなります。組合員拡大や事業拡大によって増加するもので、前年度より約 7% 増えました。商品案内は事業活動には欠かせない物であり減らすことは難しいのですが、AI を活用して配布するチラシを減らすなどの取り組みを開始しています。ただし、事業拡大により配布量は増加しています。また、大量に使用するものの責任として配達時に回収しており、リサイクル推進を図っています。



次に多い物は新聞折り込みチラシで年間約 43 t もの紙を使用します。店舗事業にとっては必要なものですが、A3 サイズのチラシの発行を減らし、B4 サイズにすることにも取り組んでいます。また、新聞を取っていない家庭も増えており、年々減少しています。

それ以外で多いものは、事務所で使用するコピー用紙で年間約 9 t にもなります。2025 年度は、前年度より約 2% 削減することができました。幹部会の資料などは、パソコンで見るなど、ペーパーレスに心がけています。しかし、会議資料やPOP用紙なども多く使用していますが、事業所にある分別ボックスで保管し、リサイクルに回しています。個人情報や経理情報が載っているものも専用の業者の方に回収頂き、リサイクルに回しています。

また、お店のPOP用紙も多く使用しており、年間約 4 t にもなります。こちらに関しても、2023 年より荒川産業様が回収し古紙回収業者に持ち込みリサイクルしており、「フクメグリ」という名のトイレットペーパーに再生され、コープあいづの店舗で販売しています。一度利用してみてください。



リサイクル推進の取り組み

持続可能な循環型社会を目指して、組合員さんと一緒にリサイクル活動の推進を行っています。

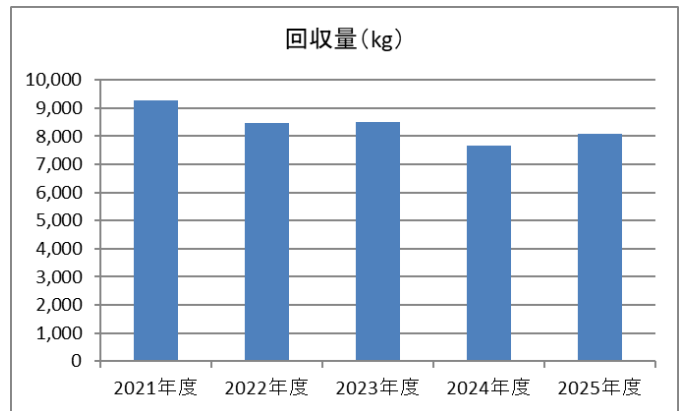
紙パックの回収に取り組んでいます ～8,095kg の回収を行いました～

牛乳パックなどの紙パック回収は、1990年より組合員さんが主体的に取り組む事から始まり、現在では各店舗のリサイクルボックスや宅配のトラックで回収しています。

組合員さんが回収ボックスに入れていただいた紙パックは、店長などが古紙問屋に持ち込んでいますが、にいでら店や宅配事業で回収された牛乳パックは、会津若松市内にある共同作業所に無償でお渡ししており、共同作業所の運営資金として活用されています。

2025年度は、7,985kg（前年比約103%）の牛乳パックを回収しました。昨年度より330kg多くなりました。

2025年度の回収では、牛乳パック換算で239,550枚の回収ができました。これは、コアノンロールにすると39,925個にもなります。約30cmの立ち木換算では160本の木の伐採を防いだこととなります。



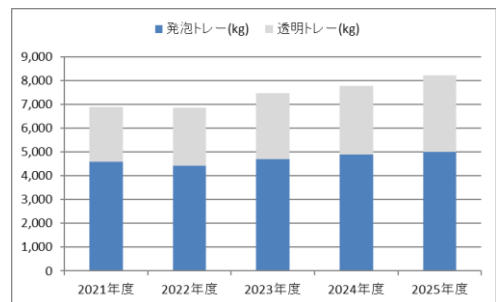
食品トレーの回収に取り組んでいます ～7,775kg の回収を行いました～

コープあいづでは、発泡トレーと透明トレーの2種類の回収を行っており、組合員さんにご協力いただいています。

2025年度の回収実績は、発泡トレー4,992kg（前年比約102%）と透明トレー3,232kg（前年比約112%）の回収を行い、合計8,224kg（前年比106%）となり、毎年回収量が増えています。

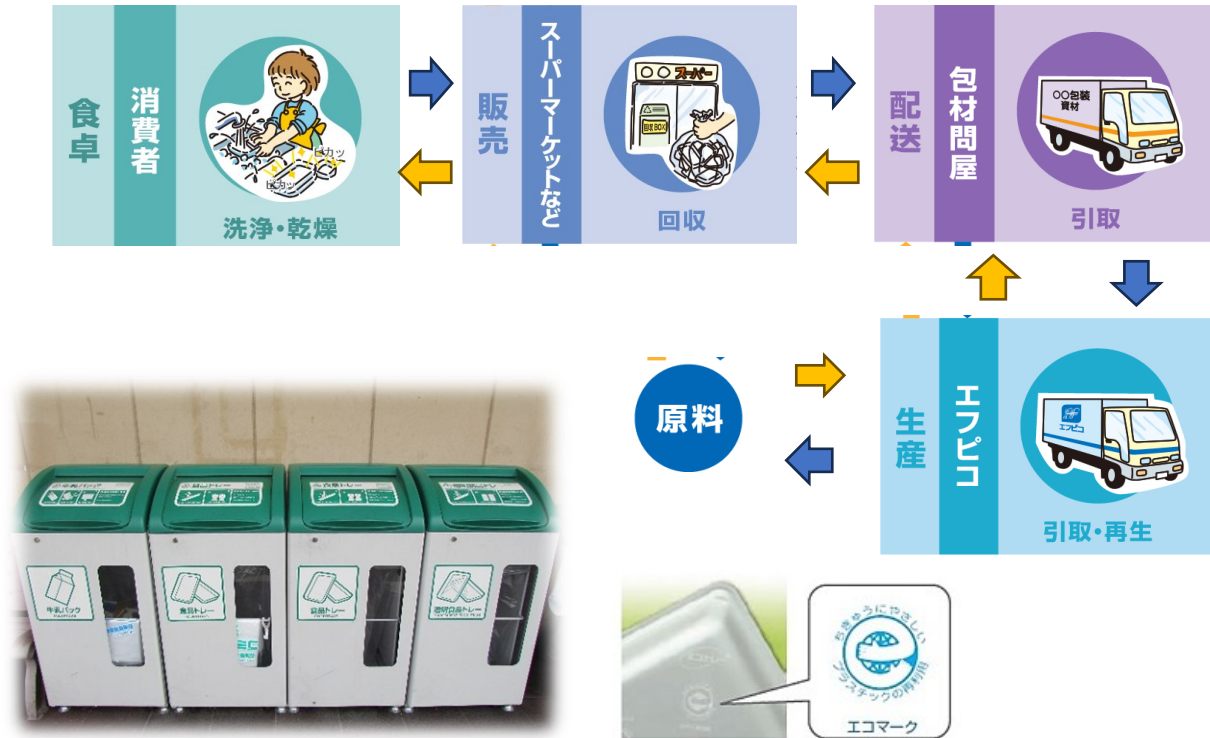
組合員さんの学習会を2回実施したことや、会津若松市の家庭ごみ有料化によりリサイクル意識が高まり回収量が増えてきていると考えています。

回収は、コープあいづ、容器包装問屋さん、メーカーさんが協力し合い、納品するトラックの帰りで回収を行うことで、回収するトラックの燃料に使用を抑え、お互いに効率のより回収を行っています。



回収された発泡トレーは、主に発泡トレーの原材料としてリサイクルされます。透明トレーは、それぞれの素材に分別され、再生トレーの原材料などに活用されます。

そして、コープあいづでは、回収されたトレーなどでリサイクルされた再生トレーを積極的に使用し、石油資源の節約や CO₂ 排出量の削減につなげています。



宅配事業で使用するシッパの内袋を回収しています

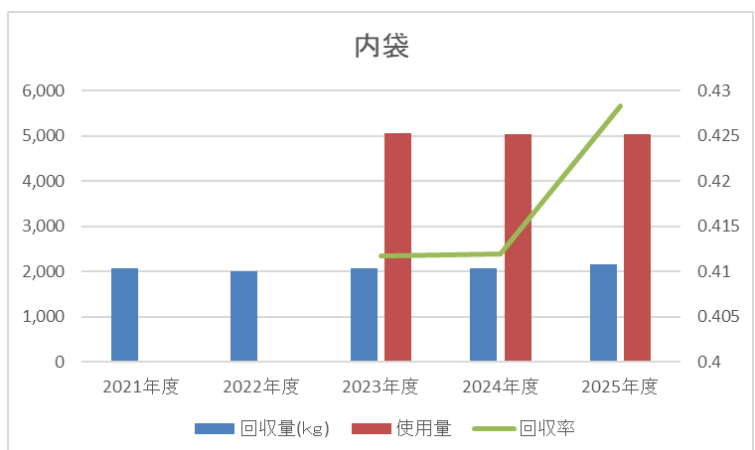
～2,160kg の回収を行いました(回収率 42.8%)～

宅配事業で使用する保冷容器には、商品を保護するために薄いシートを内側に使用しています。1枚一枚は軽いものですが、年間で5,043 kgも使用しています。この材料は石油から作られるプラスチックで、貴重な資源です。

コープあいづでは、回収を行っており、2025年度は2,160kgの回収ができました。回収率は42.8%ですが、昨年度より1.6%増加しています。

回収された内袋は、会津若松市内のリサイクル工場でRPF (Refuse Paper&Plastic Fuel) としてリサイクルされ、製紙会社や発電所などで使う固形燃料として利用されています。

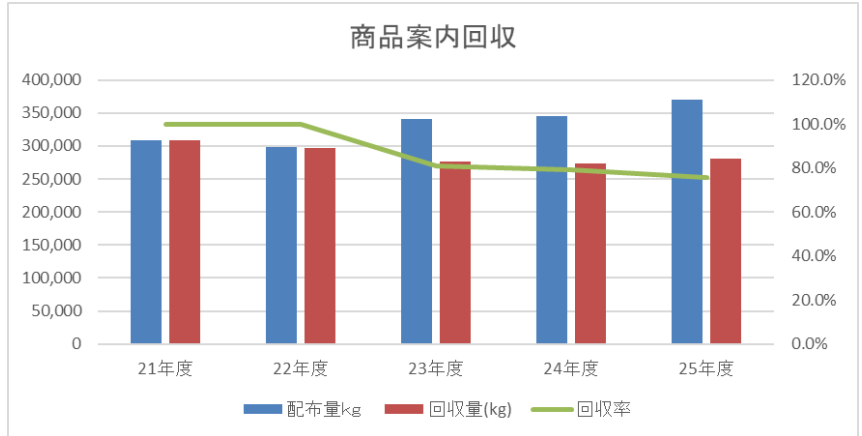
*使用量は、コープ東北で使用している量を、供給按分して試算しています。



商品案内の回収に取り組んでいます ~281,240kg の回収を行いました~

コープあいづにおける紙の使用量で、一番多くを占めるのが宅配事業で組合員に配布する商品案内（カタログ）となります。

2025年度は370,580kg（前年比約107%）の商品案内（チラシやニュースなどを含む）を配布し、281,240kg（前年比約103%）の回収を行い、リサイクルを行いました。



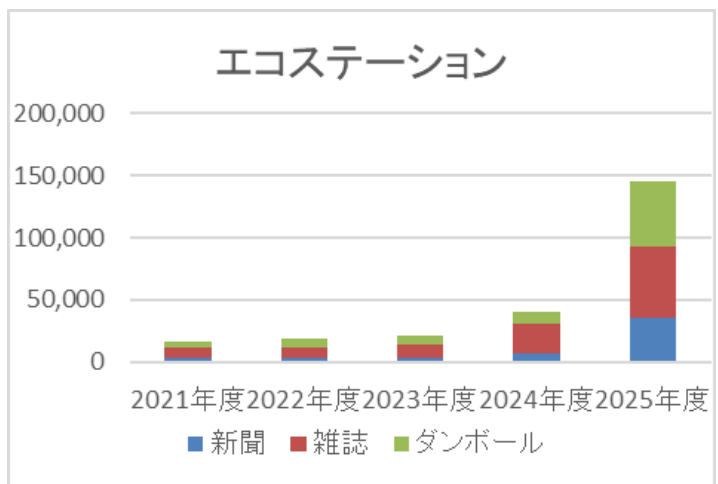
リサイクル率は約76%となり、配布した紙のほとんどがリサイクルされています。

ただし、カタログでは、食品だけでなく雑貨や日用品、衣料品など、幅広い品ぞろえをするため、配布重量が増えてしまいます。今後は、「宅配で使用する商品案内の配布重量を、3030年度までに2021年度対比で5%削減」という目標を設定し、不要なカタログはDXなどを活用して配布を中止したりすることも含め、削減に心がけます。

古紙の回収ステーション ~145,060 kg の回収を行いました~

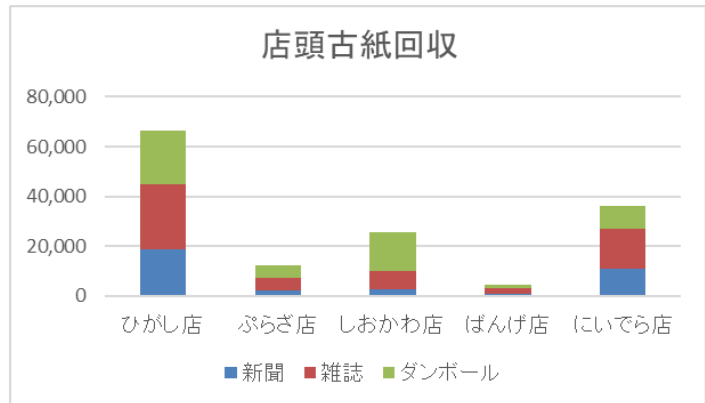
これまで、ぷらざ店の駐車場1か所で回収を行っていましたが、ひがし店とにいでら店でポイントシステムがある古紙回収ステーションをスタートし、ばんげ店としおかわ店にも回収ボックスを設置して古紙回収を進めています。

回収拠点を増やしたことや、ポイントシステムがある回収ステーションを2か所設置したため、回収量が大きく伸びました。



2025年度は新聞 35,588kg（前年比約 550%）、雑誌 56,710kg（前年比約 231%）、ダンボール 52,762kg（前年比約 595%）、合計で 145,060kg（前年比 363%）の回収となりました。

ポイントシステムのある古紙回収ステーションの回収量が多くなっています。



廃棄物削減の取り組み



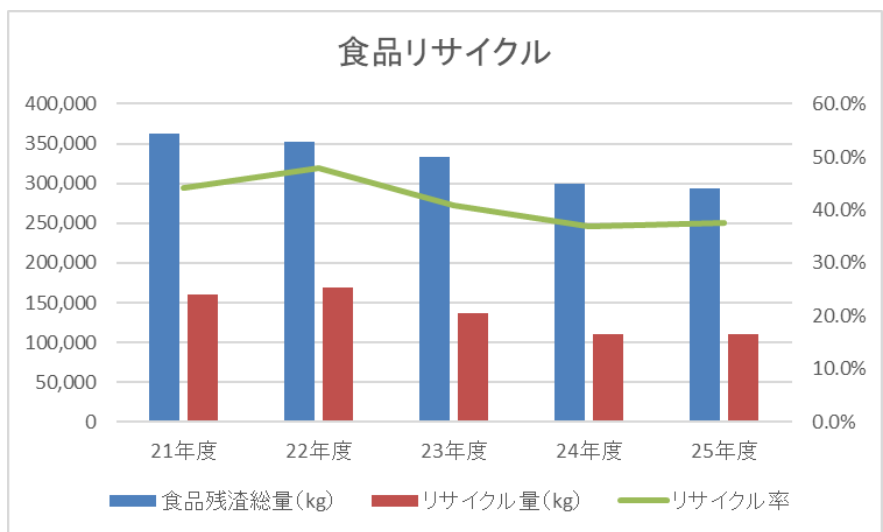
コープあいづから排出される廃棄物で、一番重量が多い物は事業系一般廃棄物で 367,874 kg（前年度比約 99%）となっています。中でも、食品廃棄物は 183,391 kg（前年度比約 93%）となっており、全体の約 50%を占めています。

その為、食品リサイクルが重要となってきます。

食品リサイクル ～リサイクル率は 37.6%となっています～

食品リサイクル法では、令和7年3月14日に公表された新たな基本方針で、2029年度（令和11年度）までに食品小売業は65%を達成するよう目標が設定されています。

コープあいづでは、2025年度の食品リサイクル率は、37.6%に留まっており、残念ながら目標からはかけ離れた実績となっています。人手不足もあり、分別が十分にできていません。



コープあいづの環境・サステナビリティ政策では、「食品廃棄物の発生量を、2021年度対比 64%に削減します。」という目標を設定して発生抑制を図っていますが、2025年度では2021年度対比 81%となっ

ています。

しかしながら、2026年度より食品リサイクルを委託していた業者が食品リサイクルの事業から撤退し、もう1社も撤退することが決まっており、会津地域で食品リサイクルをしていただける業者がなくなっ
てしまいました。

自前で生ごみ処理機を活用するか、会津地域以外の食品リサイクル業者に委託することが必要となりますが、どちらにしても多くの費用が必要となりますので、よりよい方法を研究していきます。

できることとしては、いままでリサイクルできていなかった肉の端材や揚げかすについて、廃食油を回収している業者にリサイクルしていただくこととしました。



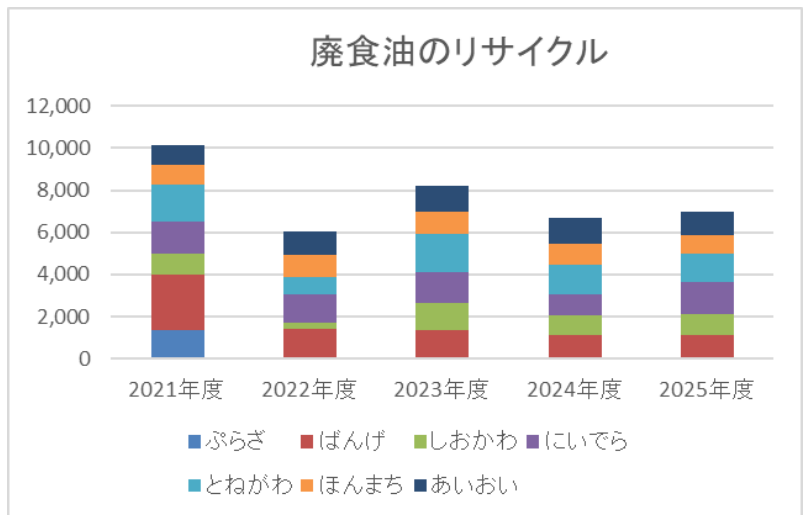
廃食油のリサイクル ~7,561 kg のリサイクルができました~

店舗の総菜部門などでは、毎日大量の食用油を使用しています。コープあいづでは、使い終わった廃食油はすべてリサイクルしています。

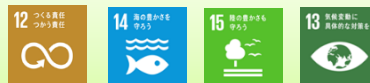
ひがし店・ぷらざ店・しおかわ店から排出された廃食油は、山形市にある「あやめサービス」で回収され、飼料として活用されています。

いいでら店・ほんまち店・あいおい店・とねがわ店・ばんげ店は、会津美里町にある「ピーターパン共同作業所」で回収いただき、バイオディーゼル燃料（BDF）としてリサイクルされ、会津若松市内で走る市内循環バスの燃料等に活用されています。

2025年度は、ピーターパン共同作業所で6,000ℓ（前年度比約105%）、あやめサービスで1,947kg（前年度比約106%）、全体で7,947ℓの廃食油のリサイクルができました。



環境に配慮した商品の利用普及



コープあいづでは、「コープあいづの環境・サステナビリティ政策とアクションプラン」を定めて取り組んでおり、行動指針1として「エンカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エンカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。」と定めています。

そして、その目標は以下の通りです。

①日本生協連のエシカル消費対象商品の供給高を、2030年までに24億円まで拡大させます。
(2021年度対比約140%)

*店舗：11億円→16億円（2021年度対比約152%、毎年約1%の伸長）

*宅配：2.6億円→3.6億円（2021年度対比約108%、毎年約1%の伸長）

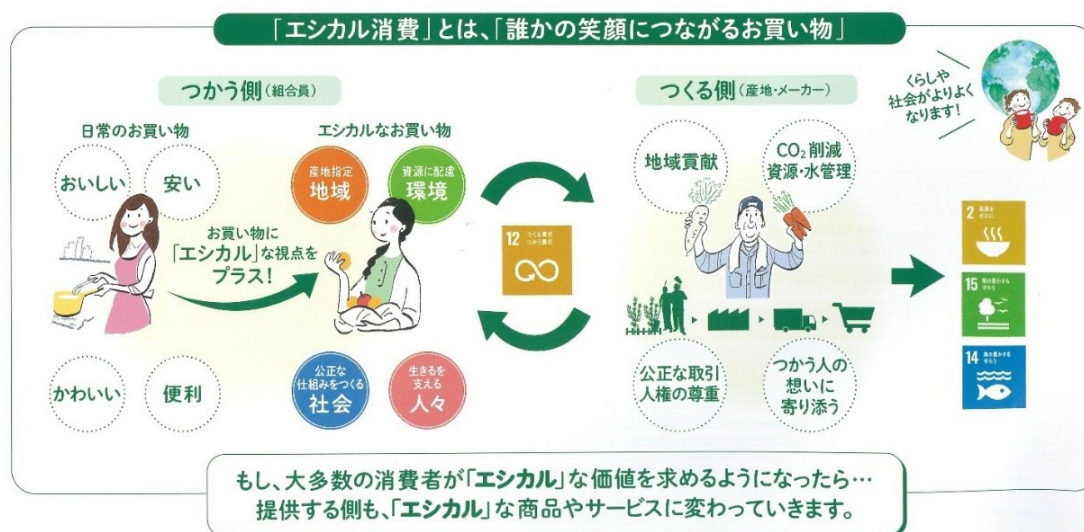
*コープあいづの店舗で扱う産直商品の供給高を、2030年までに3,700万円まで拡大させます。
(2021年度対比約106%、毎年約1%の伸長)

その達成に向けて、様々な取り組みを行っています。

エシカル消費、誰かの笑顔につながるお買い物



生協では、エシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、「地域」「環境」「社会」「人々」の4つの視点で進めています。



エシカル消費はSDGsの17の目標を実現するための重要な手段の一つなのです。

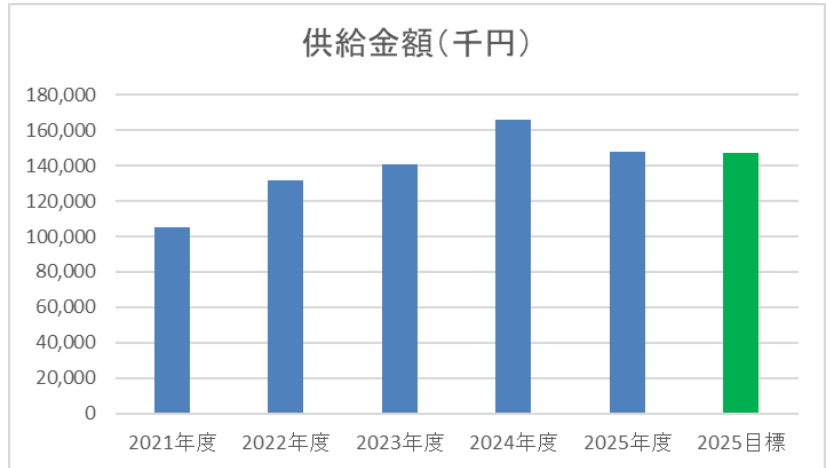
日本生協連発行「コープのエシカル」より抜粋

□店舗事業

2025 年度、店舗での供給目標は 147,250 千円でしたが、実績は 148,054 千円となり、目標比 101%で達成することができました。

2024 年度は、ここ数年で高い実績となっていますが、2021 年度からの推移をみると、順調に伸長していると思われます。

福島県の PR グッズも店頭にあることも好影響となっていますが、日本生協連の商品開発が進み、エシカル消費の対象となる商品アイテムが広がっていることも目標達成の要因となっています。

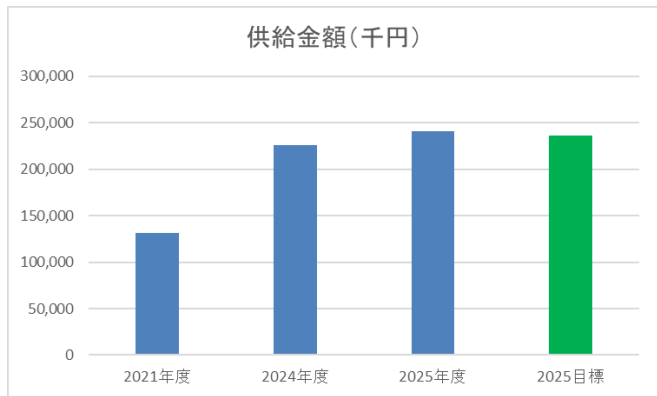


□宅配事業

2025 年度、宅配事業での供給目標は 236,258 千円のところ、241,363 円の実績となりました。

店舗事業と同様、順調に伸長しています。

こちらも対象商品となるアイテムが増えていることが主な要因になっていると考えます。

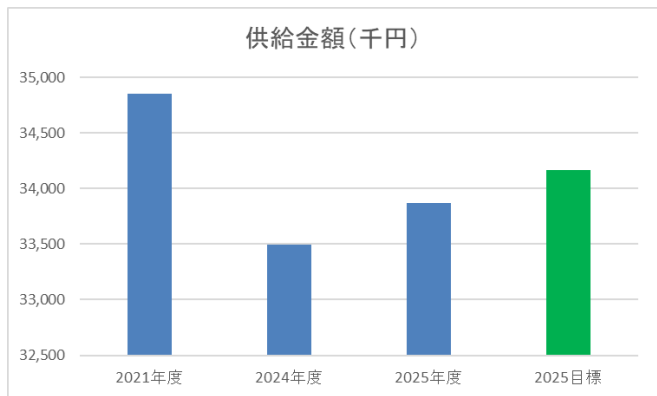


□産直商品

2025 年度、産直商品の供給目標は 34,169 千円のところ、33,873 千円の実績となり、目標比 99%と少し未達成となりました。

夏の猛暑による供給不足が主な要因です。全体的には、夏以外では目標達成レベルで推移しています。

今後、生産者拡大が必要になると考えています。



世界から飢餓や貧困をなくし、 子どもたちを支援する活動



「誰一人取り残さない世界」をめざして、世界が抱える飢餓や貧困問題についての理解を深め、助け合いの精神で、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。
また、「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

フードバンクやフードドライブに取り組んでいます ～2,366kgの食品を提供できました～



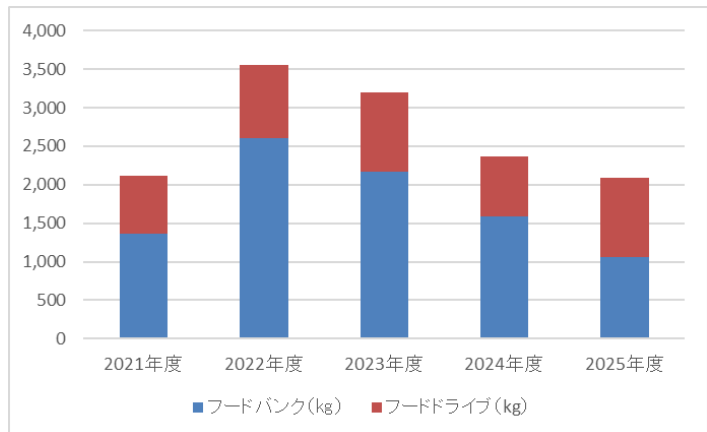
1. コープ東北フードバンク

コープあいづでは、コープ東北が設立した「コープフードバンク」に参加し、会津地域の社会福祉協議会や子ども食堂などで活用していただいています。



コープフードバンクでは、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯などに無償で提供する活動を行っています。このことで、食品ロスを減らす事にもつながっています。

2025年度は1,062kgの食品を会津地域の社会福祉協議会様に提供しました。



2. フードドライブ

店舗で行う「フードドライブ」は、年3回実施しました。今年度も、社会福祉協議会様やボランティアの方と一緒に取り組むことがで、4040点の商品と29,691円の寄付が寄せられ、1030.8kgの食品をお届けすることができました。4万円分の商品券を「フードドライブにお役立てください」と寄付していただいた方や、30kgのお米を3袋寄付していただく方がおり、本当にありがとうございました。



本当にありがとうございました。

きました。

宅配事業では、昨年度の2回より回数が増え年3回の「フードドライブ」を実施することができ、896点、288.6kgの食品をお届けすることができました。

フードドライブで寄せられた商品は、会津地域の社会福祉協議会様にお届けして、必要な方にお届けされています。

商品の価格が高くなってきており、寄付いただける商品は年々減ってきていますが、必要とされる方の数は増えており、フードバンクサポーター通信の発行や学習会の実施などの取り組みを行い、この取り組みを理解いただける方を増やしていこうと思います。

コープあいつのフードドライブは、お店や宅配で購入していただいた商品を、その場で寄付することとしています。通常のフードドライブは、ご家庭などで過剰となった商品を寄付するものですが、食品の安全確保と賞味期限が長い商品をお届けするために、購入いただいた商品をお渡ししています。一旦家庭に入ったものは、その保管状況が分からなかったり、異物混入のリスクを避けるためにこのような形で実施しています。

社会福祉協議会様からは、賞味期限が長いものが多く、必要な時に活用できてたいへん助かるとの声をいただいています。

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくり



私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加する為、自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売など、生協の事業や活動を活用し、地域における役割を果たしていきます。

行政や地域の方々と一緒にすすめる環境保全活動



行政の会議等に委員として出席しています

- ・ 会津若松市「会津若松市3R運動推進会議」の構成団体として参加。
- ・ 喜多方市地球温暖化対策推進協議会の委員として参加。
- ・ 喜多方市環境にやさしい農業推進協議会に、委員として参加。
- ・ 猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会の委員として参加。また、環境委員会の皆さんが、猪苗代湖清掃活動に参加。
- ・ その他、農業関係や食に関わる委員会や協議会などに、委員として参加。

「ふくしまゼロカーボン宣言事業」の取り組みに参加しています



コープあいづでは、福島県が行っている「ふくしまゼロカーボン宣言事業（事業所版）」に参加し、2050年までの脱炭素社会の実現に向けて、「ゼロカーボン」を目指し取り組むことを宣言し、取り組みを進めています。

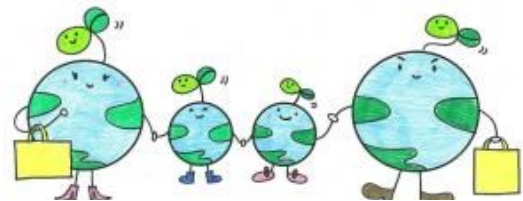
今後も、この事業に参加し、福島県を目指す「カーボンニュートラル」実現に向けて努力をしていきます。



福島県地球環境保全キャラクター『エコたん』

福島県が推進している「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録しています

福島県では、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向け、この「レジ袋無料配布中止」の取り組みをさらに促進していくため、地球にやさしい“ふくしま”「ストップ・ザ・レジ袋実施店」参加登録制度を実施しており、コープあいづの全店舗が参加しています。



福島県地球環境保全キャラクター『エコたん』

福島県「食べ残しゼロ協力店・事業所」に参加しています



福島県が進める「もったいない！食べ残しゼロ推進運動」に協力する食品小売店として登録し、「閉店間際等の値引き販売」「ばら売り、量り売り、少量パックによる販売」「賞味期限・消費期限が近い商品の値引き販売」「野菜や魚、肉など、少量を希望される方には、カット販売のサービス、少量パックの提供などにも応じる」「業界の1/3ルールに該当しそうな商品も仕入れ、低価格で提供を行っている」などの取り組みを行っています。



組合員さんと一緒にすすめる環境保全活動



コープあいづの分野別委員会の一つとして「環境委員会」があり、組合員さんが自主的な活動として、清掃活動などのボランティア活動、会津若松市で開催されている「環境フェスティバル」への参加、学習会の実施など、幅広い活動に取り組んでいます。

環境フェスティバル in あいづ

環境委員会では、実行委員会にも所属し、ブース参加をしています。

展示ブースでは、コープのエシカル商品の紹介、新聞紙で作るエコバッグづくり体験、普段の暮らしの中で省エネを意識していただくための「エコチャレンジシート」の記入などを行いました。

コープあいづエコライフチャレンジ

家庭での省エネを進めるために、環境委員会で「エコチャレンジシート」を作成し、取り組みを進めました。

2025年度は、会津若松市環境フェスティバルや店頭で参加を呼びかけるなどして、1,207名分の回収ができました。「エコチャレンジシート」をチェックすることで、普段の暮らしを振り返り、エコな暮らしへの取り組みを広げることにつながります。



ペットボトルのキャップの回収を行っています 255kg

環境委員会では、限りある資源を大切にすることを目的に、各所（にいでら店・喜多方燃料、本部などの回収BOX）や各店の内部職員が集めたペットボトルキャップを回収しています。

回収したペットボトルのキャップは、荒川産業株式会社「アマルク会津一ノ堰」へ運び、「特定非営利活動法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」を通じて世界の子どもたちにワクチンを贈っています。

2025年度は、全体で約255kgのキャップが集まりました。ペットボトルキャップ3kg（約1,300個）でポリオワクチン1人分と計算されますので今回は約85人分になりました。

また、ゴミ減量にもつながる事にもなります。



家庭ごみの有料化についての学習会

会津若松市の「家庭ごみの有料化」を前にして、若松のエリア会と合同で学習会を開催し、48名の参加がありました。

会津若松市環境共生課のご担当者より、家庭ごみの有料化をすることになったこと、経緯、ゴミ減量の必要性、分別によるゴミ減量、ゴミの出しかたなど、具体的なお話をいただきました。

サステナブルな取り組み



子育てを応援する取り組み

子育て広場「ココたん」

子育て広場「ココたん」は、子育て中のお母さんが気軽に集まれる居場所で、孤立しがちなお母さんたちのネットワーク作りをお手伝いする場として開催し、対象は、0～3歳（未就学児）とそのママさんです。

2025年度は3回実施され、ぶらざ店では「子育て広場ココたん」と「ぶらざ店のフレンズ」が合同で、レシート抽選会、能登半島支援バザー、輪投げお菓子すくいを開催しました。また、にいでら店では、離乳食や幼児食となるキラキラストップの試食会にも取り組みました。

「ココたん」は、子育て中のママさんの不安の軽減や、ネットワークづくりに貢献しています。今後も、子育て応援として活動を広げていきます。



すくすくばこ



福島県内の新生児誕生をお祝いし、その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には、趣旨に賛同した協賛企業様から頂いた育児グッズなどが入っています。

2021年9月21日より運用が始まったこの取り組みですが、2025年度は2,840名の申し込みがあり、多くの方にご利用いただいています。

また、宅配未登録者314名から98名の加入となり、加入率31.2%になります。生協のことを知っていただき、利用いただくことにもつながっています。

「すくすくばこ」は、会津のお子さんが、すくすくと成長していただくことを願っての取り組みです。「すくすく箱」の案内は、行政の窓口などにもあり、コープあいつの店舗などでも案内しています。

お申し込みは、以下より〈すくすくばこ お申し込み〉ボタンから、応募規約・応募フォームへおすすみください。

<https://fukushima.sukusukubako.jp/>



応募の条件

- ・下記の条件をすべて満たすご家庭へお届けします。
 1. 0歳児の赤ちゃんがいるご家庭
 2. 赤ちゃんが福島県内に在住のご家庭



こそだてパスポート「Megoca」

「Megoca」は、14歳以下のお子さんをお持ちのパパさん・ママさんを応援する新しいサービスです。毎週土曜日のお買い物が、ご利用金額の5%OFFでご利用いただけます。※一部対象外商品あり（酒、たばこ、商品券、印紙、切手、宅急便料金など）。

毎年、多くの方が登録され、コープあいづとして子育てを応援することにつながっています。

ご利用にあたって、コープカード・母子手帳またはお子様の健康保険証かマイナンバーカードなどをご提示がいただき、登録していただくことが必要です。

詳しくは、各店舗のサービスカウンターにてお問い合わせください。



安心してらせる地域づくり

各自治体と協力して行う「地域見守りの取り組み」

「地域見守りの取り組み」は、高齢者などの生活を見守る取組を推進し、地域福祉の向上に寄与するため、個人宅を訪問する事業や、地域にて集配ルート活動などを実施している民間企業から、異常を発見した場合に情報提供をしていただくことで、重層的で幅広い見守りの網を張るものです。

コープあいづでは、会津地域で14市町村と「地域見守り」に関する協定を結んでいます。県や各自治体などと連携しながら「地域のみんなで見守る体制づくり」に協力しています。

2025年度は3件の事例がありました。玄関からお声をかけても応答がなく、配送センターや行政に連絡をとった事例で、いずれも無事が確認できました。

今年度の事例も担当者の「気づきの心」が大いにみられる事例となりました。配達時間は数分かもしれませんがその中から組合員の状況を察知し異変に気付く思いは素晴らしいものと考えます。

年々高齢者時代になる中で少しでも安全安心のお役に立てられるよう26年度も行政との連携のもと取り組みを継続していきます。

□締結市町村

会津若松市、喜多方市、磐梯町、只見町、会津美里町、下郷町、猪苗代町、西会津町、南会津町、三島町、金山町、湯川村、檜枝岐村、北塩原村、(大熊町)



車に貼ってあるステッカー

宅配センターの安全運転意識を高めるために

コープあいづでは、安全運転診断ができるドライブレコーダー「Fドラ」の導入から日々、安全を意識した運転を心がけるようになっていきます。

しかし一方で、2025年度の事故発生件数は軽度な事故を入れると10件となり、前年より大幅に増えてしまいました。うち1件は重大事故になり、双方に怪我はなかったものの地域住民への不安や車両の全損と組織に大きな損失を生じさせてしまいました。

意識の向上は見られますが運転技術の低下、特に若年世代への技術教育が不足していますのでイベント動画からの視覚教育と併せて実地訓練を多用し、技術の向上から事故の撲滅に努めていきます。



社会福祉の向上

こ〜ぷ暮らしのたすけあいの会

「こ〜ぷ暮らしのたすけあいの会」の活動は、組合員相互の“たすけあい”で、有償ボランティアです。行政サービスでは手が届かない、家事手伝いや掃除、草むしりなどのちょっとしたお互いの助け合いの活動です。

2025年度の会員数は66名となっており、158時間の活動を行いました。

また、助け合いの活動だけではなく、「会員のつどい」としてポッチャを行ったり、「ミニ運動会」では、お手玉入れや豆つかみ、ビンゴゲームなどを行い、楽しく交流しました。



福祉委員会

各地域にある福祉委員会では、ボランティア活動などを通しての交流や、児童館などへの紙芝居訪問活動や、伝承遊びなどのレクリエーションを通じて、子育てや地域福祉の向上のための活動を行っています。

坂下福祉委員会では、いらなくなった布や服でウエスを作り、福祉施設に寄付しました。坂下町社会福祉協議会の方をお招きし、福祉施設の種類や福祉サービスのお話を聞きました。また、歌声サロンの開催や、フレイル予防講座などを実施しました。

若松福祉委員会では、児童クラブに訪問し、「手作り紙芝居訪問活動」に取り組みました。また、介護の現場で働いている委員さんより、介護現場のお話をお聞きました。



誰も取り残さないお買物

移動販売

会津地域では、高齢化・過疎化が進んでおり、高齢で一人暮らしの方、交通手段がなくて買い物に困っている組合員さんが多くいらっしゃいます。

コープあいづでは、宅配事業を行っており、その一助となっていますが、「お店のように商品を見て買い物したい」という声や、宅配事業にはない「お刺身」「お総菜」などが欲しいといった要望も高く、冷蔵設備もある移動販売車を利用して、移動販売を行っています。販売エリアは、昭和村、金山町、柳津町、会津坂下町、西会津町、三島町、会津美里町、湯川村。喜多方市や会津若松市の一部を含みます。

現在、1.5t車クラスの車両2台に加え、軽自動車2台の合計4台の移動販売車を利用し、週に24コース約300時か所で移動販売を行っています。

ご利用いただいている方から、「大変助かる、移動販売が来てくれるから生きていける」「生活のなくてはならない存在」「販売日が楽しみ」などのお声をいただいています。移動販売は、商品を販売するだけでなく、見守りや交流の場としても有意義な場となっています。

コープあいづでは、「誰も取り残されない買い物のかたち」を目指していきます。



支えあう活動

ユニセフ募金:568,778 円

コープあいづでは、世界のすべての子どもの命と権利を守るため、ユニセフ募金を行っています。店舗のサッカー台などに募金箱を設置、また宅配ではOCR募金にも取り組んでいます。また、年末にはハンド・イン・ハンド募金に、会津医療生協の方と一緒に取り組んでいます。2025年度の募金金額は、568,778円となりました。

募金は、福島県ユニセフ協会を通じて日本ユニセフ協会に送られ、世界の子どもたちへの長期的な開発支援を支え、厳しい状況に置かれている子どもたちにより大きな支援を届けるための活動に使われます。

2025年度のユニセフ募金額：764,846円

- 一般募金：301,528円（うち、宅配OCR募金77,800円）
- ハンド・イン・ハンド募金活動：31,259円 *11月30日(日)イオンタウンとねがわで実施
- ユニセフ「ミャンマー地震緊急募金」235,991円（うち、宅配OCR募金73,700円）

EMS（環境マネジメントシステム）

コープあいづでは、これまで行ってきたEMSを、内部統制を含めた形でのマネジメントシステムに発展させて取り組んでいます。

マネジメントシステムは、仕事に役立つことを目的としています。仕事の目標を確実に達成していくためにPDCAサイクルを活用し、組織の目標達成力を強めています。

また、環境負荷の低減は、経営にも役立ちます。省エネによって経費を抑えることができます。その他、車両燃料。ガス、水道なども省エネを確実に行的っていくために、EMSによる運用管理として確実に実施できるようにしています。

コンプライアンス意識を高め、確実な遵法ができるよう、EMSを活用しています。法律違反を犯してしまわないよう、様々なリスクを評価して取り組むこともマネジメントシステムであり、それを監視していく事は内部統制でもあるとして位置付けています。

目標の達成状況

部門	部局	目標	実績	結果
店舗事業	店舗運営部→各店舗	日本生協連のエシカル消費対象商品の供給高を、2030年までに24億円まで拡大させます。(2022年度対比約122%) *店舗：13億円→16億円(2022年度対比約122%、毎年1%の伸長)	目標：147,250千円 実績：148,054千円	○
		店舗で使用するプラスチック製容器包装の使用量を、2022年度対比で18%削減します。	目標：89,605kg 実績：87,644kg	○
		店舗でのトレー回収重量を、2022年度対比130%以上にします。	目標：7,795kg 実績：8,224kg	○
		・廃棄ロスの削減。 ・店舗全体の廃棄ロス率を-0.60%以下にする。 *廃棄金額-4,519千円 *2024年度-0.69%	<廃棄ロス率> 目標：-0.60%以下 実績：-0.64% <廃棄金額> 目標：-51,982千円 実績：-54,777千円	×
		・食品リサイクル率を、2025年度末までに60%にする。 *2013年からのコープあいづの法的目標数値は、2024年度末目標66.1%。2024年度末実績38.3% *2029年度(令和11年度)までに食品小売業は65%を達成するよう目標が設定されています。	目標：60% 実績：37.6%	×
		・人時生産性を2,313円にする。(2024年実績2,453円)	目標：2,313円 実績：2,610円	○
宅配事業	宅配センター	日本生協連のエシカル消費対象商品の供給高を、2030年までに24億円まで拡大させます。(2022年度対比約122%) *宅配：6.5億円→8億円(2022年度対比約123%、毎年1%の伸長)	目標：236,258千円 実績：241,363千円	○
		宅配での内袋回収重量を、2022年度対比150%以上にします。*四半期、もしくは半年ごとに評価。	目標：2,230kg 実績：2,160kg	×
		宅配で使用する商品案内の配布重量を、2022年度対比で22%削減します。	目標：339,120kg 実績：370,580kg	×
		・宅配事業の利用者人数を537,389人以上にする。 *事業目標数値。前年度実績人	目標：537,389人 実績：524,065人	×
DC燃料課	DC	・配送ミスの削減	目標：0件 実績：4件	×

商品部	商品部	コープあいつの店舗で扱う産直商品の供給高を、2030年までに3,700万円まで拡大させます。(2022年度対比約109%)	目標：34,169千円 実績：33,873千円	×
		店舗で使用するプラスチック製容器包装の使用量を、2022年度対比で18%削減します。	目標：89,605 kg 実績：87,644 kg	○
		・店舗全体年度累計のGPRを%にする。(リベート込み)	目標：25.0% 実績：25.2%	○
		・廃棄ロスの削減。 ・店舗全体の廃棄ロス率を-0.60%以下にする。 *廃棄金額 -4,519千円 *2024年度 -0.69%	<廃棄ロス率> 目標：-0.60%以下 実績：-0.64% <廃棄金額> 目標：-51,982千円 実績：-54,777千円	×
管理本部	管理本部→各事業所	長時間労働を削減する。 ・特別条項適用回数限度6回以下、年間延べ回数 100回未満(前年144回)	目標：100回 実績：117回	×
		労災発生回数10件以下(前年19件)	目標：10件以下 実績：13件	×
本部	役員室	①2030年に事業におけるCO ₂ 排出総量を2013年度比で73%削減します。 ②2050年までに、ゼロカーボンを目指します。	目標：2,688t以下 実績：3,118.2t	×
	組合員活動部	・環境保全の取り組みや学習会、環境イベント・エコライフチャレンジの参加人数を2023年度対比で、400人増加(40%増化)を目指します。	目標：1,200人 実績：1,207人	
全体	全事業所	事業所で使用するコピー用紙の使用重量を、2022年度対比で10%削減します。	目標：9,170 kg 実績：8,781kg	○

環境関連法の遵守状況

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況(2026年3月調査)
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防火対象物の定期点検報告。 ・防火管理者の設置。 ・灯油・軽油・ガソリン等の危険物貯蔵及び管理者。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物貯蔵及び取り扱い管理については問題なし。 ・防火管理者、危険物保安監督者の設置を確認。 ・施設の防火対策は、消防署の立ち合い検査を受け、問題がない事を確認。

浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 年1回指定検査機関による法定検査。(第11条) 法定に基づく保守点検及び清掃。 	<ul style="list-style-type: none"> 点検及び清掃の実施。 2025年度の法定点検はすべて終了。法定基準を超えるものはない。 本部は単独式浄化槽なので改善が必要。にいでら店は下水道への接続に変更。
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> 排水水質基準の順守。 排水事故時緊急措置及び届出。 	<ul style="list-style-type: none"> 水質基準で問題なし。 排水事故等は起きていない。
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> 河川等への油流失による汚染 	<ul style="list-style-type: none"> 事故の発生なし
騒音・振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 指定区域内の特定施設の設置の届出。(冷凍機及び空気圧縮機の出力7.5kw以上の設備) 	<ul style="list-style-type: none"> 届け出の維持確認済。 騒音振動の苦情発生なし。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物、産業廃棄物の委託業者との契約。 廃棄物の保管、管理。マニフェストの発行と管理 	<ul style="list-style-type: none"> マニフェスト管理で、引き続き電子マニフェスト化を進めた。 定期的な処分に関しては全て電子化。一部紙での発行も行った。
エネルギーの使用の合理化に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進者の選任 中長期計画の策定。 定期報告の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進の選任届の実施。 中長期計画及び定期報告の実施。 管理標準を作成し、エネルギー管理を実施。 2025年度報告、Aランク評価。
食品リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 再生利用等の実施及び目標の設定。2024年度(令和6年度)までに食品小売業は60%。 定期報告義務。 	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度分は2026年6月までに報告予定。 2025年度の再資源化は37.6%、前年より0.9%低下している。*4年連続低下 <u>※法が要求している水準に達しておらず、低下傾向となっており、改善が必要。</u> 2026年度は、食品リサイクルが業者の都合で行えなくなる為、更に低い水準となる。少しでも食品リサイクルができるようにしていく。
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 使用量に応じたりサイクル義務。 排出抑制義務(店頭回収の促進、レジ袋の削減)及び報告義務。 	<ul style="list-style-type: none"> 容器包装の使用量は、89,089 kg。前年比約0.2%の削減となりました。 トレーの店頭回収は、8,224 kg(発泡トレー4,992 kg、透明トレー3,232 kg)。前年比約106%と前年より増加。*組合員学習会の開催や広報などでの紹介もあり、3年連続で増加。 レジ袋削減の取り組みは、持参率88.8%と前年とほぼ同じ。(前年度89.0%) 遵法上の手続き 委託契約は、2026年1月に実施済。 定期報告は、2026年6月に報告予定。
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> 分別回収のための表示義務 	<ul style="list-style-type: none"> *点検されているかは不明

フロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・フロン引渡しにおいては「委託確認書」の交付と「引取証明書」による引渡し終了の確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フロンの漏えい量の把握、CO₂ 排出量換算で 814.57 トン-CO₂。*1,000 ト以下となり報告不要。 ・今後、老朽化した冷凍冷蔵ケースの買い替えを早急に進めていく事が必要。
会津若松市、喜多方市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定	<ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグ、マイバスケットの持参の呼びかけ。 ・マイバッグ、マイバスケットの販売。レジ袋の辞退数、マイバッグ、マイバスケット持参率など削減状況を市に報告。 ・レジ袋の無料配布の取りやめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会津若松市、喜多方市への定期報告の実施。 ・会津若松市と、「レジ袋削減協定」を締結中。 ・福島県とは、「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録。
福島県におけるレジ袋の削減に関する協定	<ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグ等の持参を呼びかけ、レジ袋の削減の取り組みの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋辞退率は 88.8% (前年比 99.8%)。
PCB 処理特別措置法	<ul style="list-style-type: none"> ・PCB 廃棄物の届出・保管 	<ul style="list-style-type: none"> ・微量 PCB を含む可能性があるものがあるが、県への登録済 (465.4kg)。

内部環境監査の結果

2024 年度内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動や内部統制に関する管理について、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。

環境マネジメントの運用では、システム的な不適合はなく、各事業所で活動がされていました。

ただし、進捗報告書の活用が不十分で P D C A が上手く回っていない事業所や「独占禁止法」や「取適法（旧下請法）などの法的な対応が不足している点などもありました。特に、法的な対応やルールの不徹底などが散見されました。

今年度は、不適合 B が 2 件発生しています。どれも遵法に関わるものでした。

1 件は改正フロン法の対応で、店長が交代した事業所の簡易点検が 1 年間実施されていないという指摘です。進捗報告書の遵法欄を見れば実施されていないことが分かりますが、その活用がされておらず、未実施状況を確認できていません。しばらくの間、店長不在の時期がありましたが、店次長が EMS に関わっておらず、管理がされていない時期がありました。

もう 1 件は消防法の対応です。消防計画の変更が必要になった際、パソコン上のファイルは書き換えてありましたが、消防署への届け出がされていませんでした。速やかに届け出をしないと、どの消防計画が正しいかわからなくなってしまいます。

観察は 25 件の指摘がありました。

一番多いのは、法規制に伴うものです。「独占禁止法」や「取適法」対応が 4 件あり、内容の周知と実施のチェックが不足しています。新しい法律が制定されたり、改定された際の管理部署が明確になっていないように思います。コンプライアンスの重要性が高まっており、組織全体として監視していくこ

とが必要だと思えます。

次に多いのは目的目標です。前年度より改善はされてきていますが、原因を明らかにして対策をしていくPDC Aサイクルが上手く回っていないものがあります。

また、運用管理の指摘も多く発生しています。冷凍冷蔵庫の温度管理やごみの分別、電気やガスの使用に関しては、経費に直結するために管理を強化していくことが必要だと思えます。

経営改善をするにあたっては、目標達成のためのPDC Aを活用した業務スタイルの確立が必要になるため、重要な課題だと考えます。

商品部では、勤怠管理が各個人に任されていますが、コントロールされていないように思えます。また、出張規程等の正しい運用のチェックなどもされていないものがあり、チェック機能が正しくされていないところもあります。

観察の指摘を見ると、昨年度と同様にルールを確実に守ることに関する意識が少し薄れていると思われる。逸脱している際に、責任者からの指摘や指導が不足しているのではないかと考えます。

プラスの所見が14件ありました。今回の監査でも良い事例も見出せました。

廃棄ロス削減の取り組みや、人時生産性の取り組みで良い事例が出てきています。廃棄ロス削減では、売り場の変更や最終値引きを部門をまたいで行う事や、他部門の方がフォローをする仕事のスタイルを作る等、横展開できる事例が出てきています。

公益通報の相談とハラスメントの相談を兼ねた外部相談窓口を設けることで、より相談しやすい体制ができたことは良いことです。今年度は、ハラスメント3件、内部通報1件の受付をされていますが、専門的なアドバイスを受けることもできる様になり、スムーズな運営がされていると思えます。

今年度の監査では、昨年度の課題が改善されているところもありましたが、PDC Aのマネジメントサイクルを、上手く業務に活かすまでには至っていません。

コープあいづでは、マネジメントシステムの運用は、仕事に役立つことを目的として取り組んでいます。業務目標を確実に達成していくための強いリーダーシップを発揮し、PDC Aサイクルを活用して課題を一つ一つ解決していくことが大切です。EMSを活用し、目的目標をやりきるためのPDC Aが全員で回せるようにすることで、強い業務体制が確立することと思えます。

結論としては、EMS（環境マネジメントシステム）は概ね構築されていると判断しますが、マネジメントシステムが仕事に役立つものとして活用していけるよう、改善につなげていけるようなEMS（環境マネジメントシステム）にブラッシュアップすることが必要だと思われま

す。また、店長が移動になった時の引継ぎで、環境関係の書類、消防法関係の実施事項、フロン法の簡易点検方法など、十分に引き継がれておらず、未実施となることもあり、EMS関係も業務の重要な引継ぎ事項としておくことが必要と感じました。

規定などのルールを守ることも重要なことですが、ルールを正しく理解されていないことや、一度守られないとそのままになってしまうなど、業務運営上の問題が発生する可能性があります。これまでの経験などによる運営ではなく、規定や規則やルールを確認し、業務運営をしていくマネジメントスタイルも必要だと感じます。

EMS：環境データ

1. エネルギー・資源の使用量

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
エネルギー	電気使用量(kwh)	8,735,665	8,253,925	8,124,937	8,204,775	8,046,167	98.1%
	LPG使用量(m3)	74,819	64,047	65,030	65,922	70,033	106.2%
	灯油使用量(L)	34,603	17,967	19,375	26,789	20,111	75.1%
	軽油(L)	114,078	118,544	108,732	93,574	113,185	121.0%
	ガソリン(L)	19,891	23,973	38,552	29,086	28,480	97.9%
資源	水道使用量(m3)	38,445	37,153	38,099	38,511	37,187	96.6%
	紙 合計(kg)	370,827	368,443	420,953	405,238	426,918	105.3%
	商品案内	293,520	298,240	286,220	345,120	370,580	107.4%
	チラシ	59,099	53,812	45,976	46,013	43,291	94.1%
	POP用紙	7,880	5,919	4,653	5,167	4,266	82.6%
	コピー用紙	10,328	10,472	11,283	8,938	8,781	98.2%
	プラ容器(kg)	79,076	81,533	69,546	80,762	80,946	100.2%
	プラ包装(kg)	20,220	21,325	15,511	7,486	6,403	85.5%
	紙 容器(kg)	442	776	205	351	518	147.6%
	紙 包装(kg)	607	278	797	395	167	42.4%
	PETボトル	678	340	255	298	296	99.3%

- ・ 電気は、猛暑の影響で夏期の使用量が増えましたが、冬期は穏やかな日が多く、削減できました。また、一番電気使用量が多いひがし店の改装で、冷凍冷蔵庫を新しくして為消費電力量が抑制できました。
- ・ LPGは、ひがし店のスロープの融雪ボイラーでの使用が増えた為に増加しました。
- ・ 軽油は、宅配事業の事業拡大によって増加しました。ガソリンは、宅配の営業の人手不足で十分な営業活動ができず、使用量が減りました。
- ・ ほんまち店で、融雪ボイラーの使用を減らし除雪車を利用することによって、灯油の使用量が削減できました。
- ・ 宅配の事業拡大によって商品案内の重量が増加しました。

2. CO2 排出量

	2013年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比	2013年度比
電気	5,353	3,992	2,608	2,470	2,593	3,395	131%	63%
灯油	140	86	45	48	165	50	30%	36%
LPG	571	224	192	195	198	210	106%	37%
ガソリン	58	46	60	90	74	66	90%	114%
軽油	274	262	253	246	245	296	121%	108%
CO2排出量 (t)	6,739	4,611	3,158	3,049	3,274	4,018	123%	59.6%
2013年度比 (%)		68.4%	46.9%	45.2%	48.6%	59.6%		

- ・ 電気は、2023年度までは基礎排出係数で計算していましたが、2024年度からは新排出係数に変わりました。また、2025年度は電気の調達を行っている会津エナジー様の温室効果ガス排出係数が高くなり、前年よりも多くのCO2排出がありました。しかしながら、2013年度対比では約40%の削減となっています。
- ・ 軽油は、事業拡大によって増加します。電気トラックを導入すると削減になりますが、4WD車両がなく、導入には至っていません。

3. リサイクル量

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
牛乳パック(kg)	9,292	8,454	8,500	7,655	7,985	104.3%
発泡トレー(kg)	4,580	4,419	4,686	4,883	4,992	102.2%
透明トレー(kg)	2,318	2,434	2,778	2,892	3,232	111.7%
発泡容器(kg)	28,727	29,133	28,930	20,955	19,704	94.0%
内袋(kg)	2,080	2,270	2,080	2,080	2,160	103.8%
商品案内(kg)	308,630	297,550	276,430	272,810	281,240	103.1%
食品残渣(kg)	159,992	146,090	136,575	110,120	110,730	100.6%
廃食油(kg)	11,200	7,132	9,225	7,561	7,947	105.1%
古紙(kg)	15,980	18,740	20,540	39,948	145,060	363.1%

- ・ トレー回収は、学習会や広報でのお知らせなどを行い、年々増加傾向となっています。
- ・ 古紙は、ポイントが付与される古紙回収ステーションを2か所設置したために増加しています。

4. レジ袋辞退率

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
使用重量(kg)	3,430	3,139	3,385	3,198	3,224	101%
レジ袋辞退率	89.3%	89.1%	89.1%	89.0%	88.8%	99.8%

- ・ レジ袋持参率は、90%程度になってきており、高止まりとなっています。

5. 食品リサイクル率

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度比
食品残渣総量(kg)	361,962	352,081	333,389	299,048	294,121	98%
リサイクル量(kg)	159,992	168,458	136,575	110,120	110,730	101%
リサイクル率	44.2%	47.8%	41.0%	36.8%	37.6%	

- ・ 食品リサイクルは、食品リサイクル法で求められている目標を達していません。
- ・ 2026年度より、食品残渣のリサイクルを委託していた業者が業務から撤退する為、次年度は更に低下。
- ・ 肉端材と揚げかすのリサイクルを開始する。

6. 商品案内配布量、回収率

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
配布量kg	309,120	298,240	340,871	345,120	370,580	107%
回収量(kg)	308,630	297,550	276,430	272,810	281,240	103%
回収率	99.8%	99.8%	81.1%	79.0%	75.9%	96%

- ・ コープ東北では、DXを活用して不要なカタログの発行を抑制する取り組みを行っているが、事業拡大によって増えています。

7. 産業廃棄物排出量

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年比
安定型混合廃棄物	7,488	7,696	4,680	9,620	8,840	6,760	91.9%
汚泥(泥状のもの)	16,720	18,260	18,370	18,260	21,890	56,155	119.9%
下水汚泥	24,750	37,400	42,900	37,400	39,050		104.4%
発泡スチロール	12,499	41,780	41,860	41,970	41,610	42,440	99.1%
発泡ポリスチレン	60,000	2,080	2,000	2,080	2,080	2,160	100.0%
廃プラスチック(硬質)				600	1,490	8,480	248.3%
蛍光灯			10				0.0%
伐採材・伐根材		1,100		4,790	2,690	600	56.2%
廃PCB等			100	100			0.0%
合計	121,457	108,316	109,920	114,820	117,650	116,595	102.5%

- ・ とねがわ店の閉店に伴い、廃プラスチック(硬質)の廃棄物の発生量が増えています。

8. 環境会計

環境保全効果						
環境保全効果を表す指標					2025年度実績	2023年度との差
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	水 光 熱	電気(kWh)	8,046,167	-158,608	
			ガス(m ³)	70,033	4,111	
			灯油(ℓ)	20,111	-6,678	
			水(m ³)	37,187	-1,324	
		燃料	軽油(L)	113,185	19,611	
			ガソリン(L)	28,480	-606	
		エネルギー消費によるCO ₂ (t)			4,018	744
事業活動から算出する財・サービスに関する効果	廃棄物の排出(kg)		367,874	-4,205		
	廃棄物のリサイクル量	食品残渣、廃食油(kg)	110,730	-6,951		
	レジ袋使用重量		3,224	25		
上・下流コストに対応する効果	回収リサイクル量(kg)	牛乳パック(kg)	7,985	330		
		発泡トレー(kg)	4,992	110		
		透明トレー(kg)	3,232	340		
		発泡容器(kg)	19,704	-1,251		
		内袋(kg)	2,160	80		
		商品案内(kg)	281,240	8,430		
		食品残渣(kg)	110,730	610		
		廃食油(kg)	7,947	386		
		古紙(kg)	145,060	105,112		

*生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(廃製品・包装などのリサイクル、リユースおよびグリーン購入コストなど)

サステナビリティレポート2026

この環境報告書は、2025年度の活動をまとめて作成しています。

発行日 2026年4月30日
対象期間 2025年3月21日～2026年3月20日
発行 生活協同組合コープあいづ
福島県喜多方市字二丁目 4669-2
お問合せ先 コープあいづ 役員室 新山敦司
TEL 0241-22-1041 FAX 0241-24-3504
Mail a_niiyama@coop-aizu.jp

※環境報告書は、コープあいづのHPでも公開しています。
カラーとなっていますので、ぜひご覧ください。